

年末年始展示イベント「うま」

2014年の干支である「うま」をテーマに、みんなく所蔵の資料や写真を展示し、世界各地の「うま」にかかわる興味深い情報をご紹介します。展示場内の「うま」にかかわる資料の場所を示した「うまマップ」もお配りします。年末年始、世界の人がひと「うま」のつながりを探ってみませんか？

会期 12月12日(木)～
2014年1月28日(火)

会場 本館 探究ひろば横休憩所

◆関連イベント
◆キャラクタートーク

日時 1月13日(月・祝)
11時～11時20分/14時30分～14時50分

解説 小林繁樹(本館教授)

会場 本館 探究ひろば横休憩所

◆ワークショップ

「大きな「うま」ジグソーパズルに挑戦！」
みんなく所蔵の展示資料を使った絵柄のジグソーパズルを難易度の高いものと低いもの2種類をご用意しています。参加者には「うま」にまつわる情報シートをお配りします。

日時 1月13日(月・祝)、1月19日(日)
10時30分～16時30分(受付16時終了)

会場 エントランスホール

※当日受付、先着順、参加無料
※6歳未満の方は保護者同伴で参加してください
「おりがみで遊ぼう！」
——干支シリーズ「午」——
日時 1月13日(月・祝)
10時/10時45分/11時30分/
13時/13時45分/14時30分(各回40分)

会場 エントランスホール(定員各回10名)
※当日受付、先着順、参加無料
「えこの「午」で絵馬をつくらう」
日時 1月26日(日) 10時30分～16時

会場 エントランスホール(定員100名)
※当日受付、先着順、参加無料

特別展

渡辺敏三記念事業

屋根裏部屋の博物館——Attic Museum——

会期 12月3日(火)まで
会場 特別展示館

国際研究フォーラム

「ロシアと中国の国境——諸民族の混住する社会における『戦略的パートナーシップ』とは何か？」
中国東北部を対象に、諸民族関係を考察する鍵概念として、「戦略的パートナーシップ」をとりあげて、議論します。

日時 1月8日(水) 10時30分～17時30分
1月9日(木) 10時～16時30分

会場 本館 第4セミナー室

※要事前申込、研究者対象
申込・お問い合わせ先
小長谷研究室
電話(直通) 06・6878・8274

国際シンポジウム

「北太平洋沿岸諸文化の比較研究——先住権と海洋資源の利用を中心に」
本シンポジウムの目的は、北太平洋沿岸諸文化に関する研究のこれまでの成果と調査の現状を比較検討し、研究のためのネットワークを形成することです。

日時 1月11日(土)～1月13日(月・祝)
会場 本館 第4セミナー室(各回定員80名)
※申込不要、先着順、参加無料
みんなく映画会/みんなくワールドシネマ「ラビット・ホール」
交通事故で息子をなくした家族の和解と再生を描いた映画を通して、家族のあり方をあらためて考えるきっかけにしてください。
日時 1月25日(土) 13時30分～16時
会場 講堂(定員450名)
※申込不要、先着順、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

朝倉敏夫教授が韓国政府より大韓民国玉冠文化勲章受章

10月19日、本館文化資源研究センター朝倉敏夫教授が、多年にわたる韓国社会の文化人類学的研究、および国立民族学博物館において日韓間の人的交流、文化交流に果たした功績を称えられ、韓国政府より大韓民国玉冠文化勲章を受章しました。

●藤本透子助教が人間文化研究奨励賞受賞
本館民族文化研究部藤本透子助教が、人間文化研究奨励賞を受賞しました。

●展示場リニューアル工事のお知らせ
展示場リニューアル工事のため、朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化(沖縄のくらし)が閉鎖されます。
期間 3月19日(水)まで

●展示場一部閉鎖のお知らせ
本館2階展示場の空調設備更新のため、左記の期間、展示場の一部閉鎖をいたします。その間は観覧無料となります(ただし自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要です)。ご理解とご協力をお願いします。

1. 12月5日(木)～2014年1月22日(水)
音楽の一部、言語、南アジア、東南アジア、中央・北アジア、アイヌの文化、日本の文

化、ナビひろば、休憩所が閉鎖されます。
2. 2014年1月23日(木)～2月19日(水)
オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、西アジア、音楽の一部が閉鎖されます。
●休館日のお知らせ
年末年始は12月28日(土)から1月4日(土)まで休館します。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時から17時(土日祝を除く)です。

みんなくイベント

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料

第427回 12月21日(土)

カザフの死者儀礼——日常から展望するイスラーム

講師 藤本透子(国立民族学博物館 助教)



大規模な死者儀礼の一場面

死者のためにクルアーン(コーラン)を唱え、盛大な肉料理でお客をもてなし、馬上競技に熱くなるカザフ人にとってのイスラーム(イスラム教)は、私たちが想像するイスラームとは少し異なります。マスメディアで「厳格」「過激」というイメージが先行しがちなイスラームについて、カザフスタンの草原に暮らす人びとの日常から考えます。

第428回 1月18日(土)

熱狂エチオピアス・イン

講師 川瀬慈(国立民族学博物館 助教)



アシニアババのジャズ・ファンクバンド

エチオピアでは、50年代から70年代にかけて、皇帝ハイレセラシエの護衛楽団がエチオピア特有のメロディと西洋のポピュラー音楽を絶妙にブレンドさせながら独自の音楽世界を発展させました。本セミナーでは、現在各国の音楽シーンで話題沸騰の「エチオピア」の歴史とその世界的な広がり、音楽家たちの素顔を紹介します。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第427回 2014年1月11日(土) 14時～15時
「みんなくコレクションを語る」

中央アジアの民家の現在

講師 藤本透子(国立民族学博物館 助教)

この夏、ウスベキスタンとカザフスタンで収集を含む調査をおこないました。現在、展示場にあるウズベクの民家模型は1980年代に制作されたものです。そのモデルとなった民家を訪ね、現在のくらしの様子などをうかがいました。カザフでは天幕の役割が、住まいから別の役割に変化していることがわかりました。収集した資料も実際にお見せしながら、今回の調査や今後の調査計画もあわせてお話しします。

第428回 2月1日(土) 14時～15時

神殿更新で社会が変わる——南米アンデス文明の誕生

講師 関雄二(国立民族学博物館 教授)

東京講演会

会場 モンベル品川店2Fサロン
定員 60名(要事前申込)

第107回 12月21日(土) 14時～15時30分

「ビデオテークより」

婚礼に映しだされるインドのくま

講師 三尾稔(国立民族学博物館 准教授)
盛大なことで知られるインドの婚礼は、経済発展を背景にますます華麗におこなわれるようになっていきました。婚礼にうつしだされるインド社会の現在の姿はどのようなものでしょうか。また婚礼にかける人びとの思いはどのようなものでしょうか。インド西部のラージャスターン州で2012年に行った取材に基づくビデオテーク映像の一部をお見せしながら、インドの婚礼の変わりつつある部分と変わらない部分について考えたいと思います。
※申込は参加者名、連絡先を明記して上記友の会までメール、FAX、ハガキにて。

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

アフガニスタンの女性たちの仕事

長年にわたる紛争がいまもお続くと、アフガニスタンの女性の生活と自立の支援をめざして、2006年に日本人女性がシルクロード・パルミヤン・ハンディクラフトを設立しました。アフガニスタンの女性は手先が器用で、母は娘と一緒に絨毯を織り、身の回りの品に手の込んだ美しい刺繍をほどこし、娘が嫁ぐ日のための準備をしています。刺繍は家族の心をつなぐ文化的なものです。

そんな彼女たちが一針ごとに思いを込めて刺繍をほどこした手工芸品が届けました。バッグやポーチ、民族衣装を身にまとったティンベアもあります。失われた伝統文化を次世代に継承し、自分たちの力で未来を切り開いていくことをめざす、アフガン女性の仕事を応援しませんか。



- 手織り布のポーチ(写真左) 2,400円
- 手織り布の丸ポーチ(写真右) 2,400円
- パッチワークのお財布兼バッグ(写真中央) 8,000円
- 民族衣装を着たティンベア 4,300～5,000円

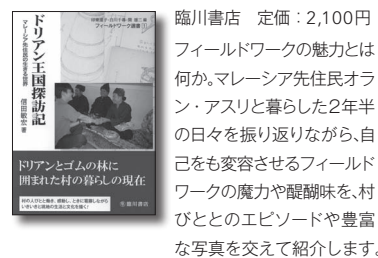
※掲載商品以外にもたくさん取り揃えております。

価格はすべて税込

刊行物紹介

■信田敏宏 著

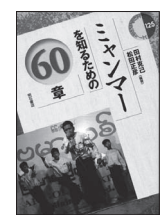
『ドリアン王国探訪記——マレーシア先住民の生きる世界(フィールドワーク選書)』



臨川書店 定価:2,100円
フィールドワークの魅力とは何か。マレーシア先住民オラン・アスリと暮らした2年半の日々を振り返りながら、自己をも変容させるフィールドワークの魔力や醍醐味を、村ひとつのエピソードや豊富な写真を交えて紹介します。

■田村克己、松田正彦 編著

『ミャンマーを知るための60章』



明石書店 定価:2,100円
今、世界の注目を集めているミャンマー。それぞれの分野でミャンマーに長く関わってきた専門家や、日本に留学や仕事で長く滞在しているミャンマー人執筆者が、その経験と知識を背景に、さまざまな視点からこの国を紹介しています。